



弘大農学部同窓会会報

第12号

平成3年7月15日 発行
 発行 弘前大学農学部同窓会
 TEL. 0172-36-2111
 振替 盛岡 4-564 番
 印刷 (株) 笹 軽 印刷

弘前からの便り

正 木 進 三

皆さん、お元気ですか。今年もまた岩木山のブナ林には、若葉の緑の爽やかさが満ち溢れ、山頂には残雪がまばゆく輝いて、津軽野に美しい季節がめぐって来ました。今、弘前を離れて活躍しておられる皆さんには、この山の姿に思いを馳せ、懐かしむ時があるのではないのでしょうか。津軽平野の何処からでも望み見えるこの山は、青春時代の思い出と共に、何時までも皆さんの心に刻みつけられていることでしょうか。しばしの旅を終えて汽車が津軽平野に入ると、まず目につくのが岩木山です。この山を見て、やっと家に帰ったなあ、と安らいだ気分になれます。

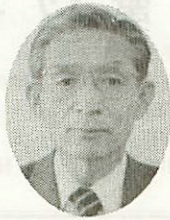
1953年3月、最初の農学部同窓会員4名が巣立った時も、それから40年近くの歳月が流れ去った今も、岩木山のおやかで均整の取れた姿は変わりません。しかし、この間に世界も日本も、私達の農学部も、大きく変貌しました。大講座制への改組、博士課程の連合大学院への参加等については、教職員と共に献身的な努力を傾けて来られた、前学部長の田辺先生が紹介され、既にご承知の事と思います。教官の陣容も、どんどん充実して来ました。1990年度には生物機能開発学講座に浅田芳宏、原田竹雄の両先生、農業生産流通学講座には玉真之介先生が着任され、生物環境管理学講座の原田幸雄先生は教授に、生産機械学講座の高橋照夫先生は講師に、それぞれ

昇任されました。

他方、長年にわたって研究と教育に精進し、それぞれ多彩な活躍を続けて来られた奥村実義先生、沢村健三先生、田辺良則先生が揃って元気に定年退官されました。お目出たいことではありますが、やっぱり、一抹の寂しさを拭いきれません。去る5月22日、三人の先生方の御功績に対し、学長室に於て名誉教授の称号の伝達が行われました。現職教官をはるかにしのぐ情熱で、研究に取り組んでおられる三先生に、皆さんと共に心から感謝し、さらに拍手と声援を送りたいと思います。

40年前に今日の農学部の姿を予言した人はありませんでした。これから40年後の状態を想像するのも、困難なことです。ただ過去がそうであったように、これからも激動の時代が続くことでしょう。行政や経済の渦中で活躍しておられる同窓生の皆さんの中には、私達の将来に蔭りを予感する方が、おられるかもしれません。だが私は農学部も弘前大学そのものも、岩木山のように泰然自若として、永遠に知的活動の場であり続けることを願います。美しい山、豊かな果樹園に囲まれたこの津軽こそ、真に学都にふさわしい土地なのです。

青春の思い出が籠った町と自然が、いつまでも大切にされ、年経て訪れる人々をやさしく抱擁してくれますように。



会長就任にあたって

同窓会会長 中尾 良仁
(青森県公営企業局事務局長)

360 去る6月1日青森市において平成3, 4年度の同窓会総会が、正木農学部長、望月名誉教授をはじめ多数の会員出席のもとに開催されました。同窓会の総会というのは、同期会や教室単位の集まり等より関心が薄く、どちらかという出席者の少ないのがこれまでの例でしたが、今回は青森支部をはじめ幹事の皆様のご努力により、総会後の懇親会も含めて盛会に催すことができました。

30 事業計画等総会の内容については、別途報告があると思いますが、役員改選により不肖中尾(32卒)が会長に推されることになりました。もとよりその器量を持ち合せておりませんが会員諸兄のご協力をいただきながら、同窓会ならびに農学部発展のため任期をまとうたいと思いますのでよろしく願いいたします。

同窓会も設立以来これまで横山宏(28卒)、岩井邦彦(32卒)両会長の優れた指導力と、多くの役職員のご努力により順調な発展を続け、本年6月現在では学部卒3,143人、院生卒138名を数える大組織にまで成長しております。

この間同窓会としましては、農学部創立10周年、20周年、30周年と節目ごとに記念行事等を行い、研究、教育機関としての充実発展を教官、同窓生共々喜びを分かちあったことは皆様ご案内のとおりであります。

特に昭和60年に開催した30周年記念式典には、北村正武青森県知事や竹内黎一科学技術庁長官をはじめ全国各地から多数の同窓生の出席のもと盛大に挙行されたことは記憶に新しいところであります。この際の記念の彫刻「望蒼天」は、農学部に学んだ証の一つとし

て深く心に刻まれ、永遠のシンボルとして生き続けてほしいものと念願するところであります。

最近卒業生の皆様も広く各界で指導的立場で高い評価を得ながら活躍されていることは大変喜ばしいことですが、これもひとえに厳しい研究、教育環境の中で学生の指導に意をそそいでいただいた教官各位のお陰であり深く感謝を申し上げます。

しかしながら農学部創立以来今日までご心血を注いでご尽力いただいた教官が毎年一人二人とその職を去られる報に接し、一抹の寂しさと時代の流れを感じられずにはいられません。

さて我が国の経済は依然として景気拡大が持続し、今年の8月でいざなぎ景気の57月を上回る見通しにあるといわれていますが、内面的には工業と農業の均衡が失われつつあり、農業を取りまく環境は極めて厳しいものがあります。例えば、農産物の内外価格差の存在による割高感、農産物の市場開放論、特にコメの部分解放をめぐる動き、他の産業に比しての農業過保護論など農業外部関係者からの指摘のほか、農業者の中からも、特に自立経営を指向する意欲的若年経営者からの農政に対する不満もまた大きいものがあります。

歴史的にみても農業と工業の調和を図らない国は、ほろびの道をたどるともいわれています。

21世紀を目前に控え、産業構造を展望するとき、こと農業に限らずバイオテクノロジーや情報システムなどの先端技術の飛躍的進歩によって、すさまじい早さで技術革新が行われることは明らかであります。

このようなときこそ、地域産業の振興、発展に果す農学部役割と、それに対する期待も大きいものがあると思います。これまでも大講座制の改組や大学院連合農学研究博士課程の設置など、時代の要請に応じて拡充発展を続けてきたところでありますが、今後は特に開かれた大学として、産官学の協調体制を

強化するなど地域の要請に積極的に対応できる大学に発展することを強く望むところであります。

このためにも同窓会活動の活性化が必要でありますので、会員諸兄のご理解とご支援をお願いして会長就任のごあいさつといたします。

退任のごあいさつ

岩井 邦彦

(弘前市都市計画部長)

去る6月1日の同窓会総会において、新役員が選任され、私は2期4年間の会長職から解放して頂くことになりました。

この4年間で、非力かつ多忙のため無為に過ごしたことを深く反省すると共に、特にその間幹事の皆様には多大のご負担をおかけしたことをお詫び申し上げます。

農学部の卒業生は遂に3,100名を超えました。

平成2年度からは、学科再編改組と大講座制への移行並びに東北地方3大学連合大学院の発足という農学部の歴史の中でも特筆されるべき変革がありました。

ところで、母校農学部は、時代の要請に即し大きく変わりましたが、同窓会は、行事、事業、予算等あまり変わらない状態が続いています。

会員が全国に分散していることから、あるいは当然かもしれませんが、県内には7つの支部があるので、県内在住の会員は、せめて年に一度位は一堂に会したいものだと思います。

今年の総会は、新農学部長正木進三教授と青森市在住の名誉教授望月武雄先生の御来席を得て70名余りの参加があり、総会後の酒席も盛り上がり、これも会員の多い青森市が会場なるがゆえと感じました。

総会では、青森県公営企業局長の中尾良二氏が新会長に選任され、私も顧問として推挙

されましたので、今後はいささか気楽に参加させて頂きたいと願っております。

県外の同窓生諸兄には、弘前を去られてから何年も経た方が大勢おられますが、学都弘前は今大きく変貌しようとしています。

一つは、中心市街地活性化計画認定都市としての駅前地区や土手町地区の近代化であり二つには、都市景観形成モデル都市の指定を受けて、弘前城址鷹揚公園周辺地区の歴史的自然的景観の保存・創造です。

駅前地区では、駅前広場の南側に11階建てのシティー弘前ホテルを核とする共同ビルが建ちました。

そのすぐそばには、約1haの土地に建築延床面積約5万4千平方メートルで、ダイエーを核テナントとするスーパー系ショッピングセンターとしては東北最大級のものとなる市街地再開発ビルが、着工に向けて着々と準備が進んでいます。

弘前公園内には約8haの植物園が昭和63年にオープンし、その年建設大臣の緑の都市賞を受賞していますし、今年6月30日には藤田記念庭園(旧藤田謙一氏別邸)が市によって再整備開園され、岩木山展望の名所ともなります。

交通事情も良くなりました。東北縦貫自動車道の大鰐・弘前インター及び黒石インターから市内に誘導される幹線道路も新設されましたし、青森方面から入って来る場合、神田

地区から真直ぐ中土手町商店街に向う巾27メートルないし36メートルの道路が、あとは中央通りから中土手町の間約260メートルを残すだけとなりました。

下町の城西地区から、森町・大学病院前に向け、高さ15メートル、長さ190メートルの大陸橋が架けられこの秋には開通します。

弘前の中心部に向かって入りやすく、出やすい交通体系が、歩行者系道路も併せて整いつつあります。

特に、県外支部の皆さんには、是非とも機

会をつくって、21世紀に向けてのまちづくりの途中の姿ではありますが、弘前の変り様を見てほしいものと念願する次第です。

古き良き弘前の保持と、新しい活力のある弘前の創造という二つの方向を目指し、景観面からも配慮しながら、私も微力ではありますが頑張っています。

最後に、中尾会長をはじめとし、新役員体制のもとで、農学部同窓会が益々発展されますことと、同窓生諸兄のご活躍とご多幸を祈念して、退任のごあいさつといたします。

退官挨拶

澤村 健三

この3月31日をもって弘前大学を定年となりました。昭和25年農林省東海近畿農業試験場（現果樹試験場興津支場、静岡県清水市）に奉職以来、東北農業試験場園芸部（青森県藤崎町）および果樹試験場盛岡支場（盛岡市）にて21年の果樹病害の研究を続け、弘前大学では昭和46年8月以来、約20年間教育と研究に従事いたしました。この間多くの先生方や学生諸君に支えられて思い出深い学園生活を送れたことを感謝します。

私の弘前大学での20年間の教育と研究を振り返ってみると、悔いが先立ち内心じくじたるものがあります。未経験の大学教育という大事な仕事は、私にとって心身ともに重荷でしたが、植物病理学教室をはじめ同僚の先生方の御協力で赴任後150余名の卒業生を世に送り出すことが出来ました。彼らの社会における活躍には目を見張らせるものがあります。多くの教え子との出会いはわが生涯最大の幸せと思います。最終講義には北は北海道、南は京都から卒業生が集まってくれました。

研究面では果樹類とくにリンゴ病害の研究に永年携わることが出来たことは大きな喜びでした。最終講義でリンゴ高接病、リンゴ斑点落葉病とリンゴ黒星病について述べる機会が与えられたことも感謝しています。また研究を通じて内外の多くの研究者と交流することが出来たことも有意義であったと自賛しています。この分野のわが国の研究がさらに進展することを願っています。卒業生の中には第一線の研究者として同じ分野で活躍している人も大勢います。将来が楽しみです。

しかし、この20年間果せなかったこともたくさんあります。大学教官は研究と教育のみに専念できない大学の仕組みになっています。また私本人の資質にもよります。どうか同窓生の諸君、悔いのない人生を歩んで下さい。私は北海道出身ですが、毎日仰ぎ見る岩木山の素晴らしさとリンゴの里津軽の思い出のこの地を離れ難く当地に永住するつもりです。同窓会の益々の発展を祈念してやみません。



定年退官ご挨拶

奥村 實 義

梅雨期を迎え、不順な天候が続いておりますが、皆様には愈々ご清祥のことと拝察いたします。

さて私儀この3月を以て定年退官いたしました。弘前大学へ赴任したのが昭和48年秋でしたから、17年半暮らしたことになりますが、この間何かとお世話になりましたことを厚く御礼申し上げます。

弘前での17年半はあっという間に過ぎたように思われますが、赴任当時学生であった諸君が今や不惑の年令に達し、社会にあっても家庭にあっても大黒柱的な存在となっておりますし、また学部創立20周年の頃キャンパスに植えた樹木、さらにはタネをまいた樹木が立派に木蔭をつくっていることをみると、改めて歳月の重みを感じます。

ふり返ってみますと、私が弘前へ赴任する数年前には新全総が策定され、都市計画法も50年ぶりに大改正されるなど、とくに産業構造の急激な変革とこれによる過密化、過疎化等への対応が急がれていた頃でした。

そして20年経過し、現状は皆様がよくご存じの通りです。殊に造園 — 住いのアメニティ面でのみどりと、余暇利用スペースとしての緑地づくり — を目指した私にとって、弘前での17年半は意義深い年月であったように思われます。

3月に退官してからも、以前からお手伝いしてきた市制百周年記念事業「藤田記念庭園」の現場通いを続けていましたが、これもこの度開園の運びとなり、7月には横浜の自宅へ戻る予定です。それやこれやに本来の筆不精が重なり、未だにご挨拶も申し上げておりませんが、ここをかりて取敢えずお詫び申し上げます。

なお退官後は、幸い今のところ健康ですので、閑な老人の仕事場を設け、これまであつめた資料等を整理して、何らかのお役に立てることができればと思っております。

最後に皆様のご健勝をお祈り申し上げ、あわせて今後ともよろしくお願い申し上げます。

農学部思い出

田 辺 良 則

28年になんなんとする私の農学部生活には、忘れえぬ幾つかの強烈な思い出があります。大学科・大講座制への改組と連合大学院の設置とは、責任者の一人として主体的に取り組んだだけに、功罪相ともなった大事件として印象が強烈です。がしかし、「大学紛争」の印象は、大学自体の存在意義と教官学生間の信頼関係が直接問われる事件としてより強烈です。また農産物流通論講座、後には農業経営学講座の設置に際して、それぞれ教官1名は純増あと1名の振替えが求められたとき、職員と助手をそれぞれ快く提供して下さった

ことなどもまた学部内の相互援助として忘れられません。

大学科・大講座制への改組は、従来の4学科・19講座を3学科7大講座に整理統合する中で、新しいバイ・テク関係講座を拡充し、密室的になりがちな従来の講座の壁を破って、研究や教育における共同をやり易くし、人事の円滑化・均衡化をはかるとともに助手定員4人の教授定員4人への振替えによって教官陣容を強化し予算を拡充しようとするものでした。その際、時流に抗して、農学の伝統を重視するとともに地域性と地方大学の特性を

強調し、全国でも最小規模の農学部にも拘らず生物系、物数系、化学系にそれぞれ基礎を置く3学科制を採り、学部、学科、大講座の名称にも農の文字を残すことに成功したのが印象的です。連合大学院は、単独では実現至難な博士課程の農学研究科を岩手大、山形大と連合して作ったのです。研究者を志すものにとって、修士課程だけでは中途半端になりがちだし、博士課程が他の大学院では修士課程からの一貫した指導が受けられないという悩みなども解消したわけです。農業経済関係講座の増設は、農業経済学科設置という長年の懸案実現の布石となるもので、前記2講座の実現によって農業経済関係が3講座となり、東北北陸の大学中農経関係で最大の陣容を形成したのですが、後1講座というところで財政事情が著しく悪化し、惜しくも学科の設置までには至りませんでした。「大学紛争」についてはその前後を合わせてやや詳しく回想してみたいと思います。

1960年代後半は、全国的な「大学紛争」とこれを超克しようとする大学改革の運動が怒濤のように逆巻いた時代でした。大学紛争に便乗し大学自治を根底から覆す「大学立法」に対する反対運動も展開され、本学でも学長、各学部長も立ち上がり、教職員学生800名の市中デモ、各学部長と学生部長を先頭にした教職員170名の市中デモ（出発に当たって学長が激励）、教職員361名のスピード署名等々、大学自治を守ろうとする、大学人に相応しい未曾有の盛り上がりもありました。「大学立法」が強行採決されるや、それが目的であったかのように、「全共闘」が指導する暴力的「大学紛争」は収束するのですが、本学ではこの段階で「全共闘準備会」が結成され、教養部講義室の占拠、角材で武装した本部・事務局封鎖となったのです。「他大学も結局は機動隊を導入して解除せざるをえなかったのだから」と、機動隊導入論が早くから提起されましたが、大学らしく論議を尽くして解決に当たろうとする機運も急速に高まり、討論と説得が教授会はもとより大小の集会、個別の

対話等々多種多様に展開し、ついには農学部パネル・ディスカッション集会、さらには全学討論集会と、「封鎖学生」をも巻き込んだ未曾有の大討論集会に発展しました。

農学部では、教授会がいち早く「論議を尽くして自主解除」を決議し、個別説得、討論集会、学長への申し入れ等、積極的な活動を展開しました。パネル・ディスカッション集会（170名参加）では、大学自治論議を進め、教授会自治から構成員自治を論ずる中で、封鎖派学生パネリストも「大学がそういう考えであるなら、封鎖の必要はない。」というに至り、全学討論集会を呼び掛けることにしたのです。全学討論集会（600名参加）では、封鎖派学生の主張「地方大学は独占資本の中級労働者の再生産工場」に対して、「一面化して捕らえてはならない。一般家庭が独占資本の労働者の再生産家内工場、ということになるではないか。」という反論があるなど、封鎖派学生は論理的破産に陥り、その後は討論集会に応じなくなりました。9月24日午後5時(?)のニュースで「明朝機動隊導入か？」と報道され、心配した学生がぞくぞく集まってきました。他学部は、機動隊とのトラブル発生を恐れロックアウトしたのですが、農学部教授会は、集まってくれたことを有難く評価し、表玄関を開放したまま受け入れ、他学部学生も入ってきて、講義室、実験室、会議室、至るところで望月学部長を始め教職員学生入り交じっての徹夜討論となりました。

こうした緊迫した状況の中で昼夜を問わない説得が続けられ、9月26日には封鎖参加学生30名中25名が自主解除を受け入れ封鎖から出てきました。この25名にも強硬派5名に対する説得に参加してもらおうとともに、このことを学長、学生部長に伝え、機動隊導入延期を申し入れましたが、「仙台からの機動隊、何時までも待機というわけには行かない」と、27日導入されてしまいました。明け初めた正門をジュラルミンの桶をキラキラ光らせながら軍靴の響きさながらに進入してくる50名ほどの機動隊の隊列は、異常な緊迫感をもって迫

ってきました。徹夜で説得に当たっていた教職員学生は、両者からの挟撃を避けて横に移動したのですが、この移動中のわれわれの目の前を、それまで角材を振り回してわれわれを威嚇してきた封鎖学生5名が角材とヘルメットを投げ捨てて遁走したのです。「機動隊を引き出し、大学が権力の手先であることを証明したのだ」との後日の弁明でしたが、何のことはない封鎖は機動隊導入が目的だったのです。事実と論理に基づき「論議を尽くして解決に当たる」そして学生とともに大学自治の担い手として協同しようとする農学部教授会の態度は、学生にも広く認められ、荒れに荒れた「大学紛争」の中でもそして「大学紛争」に続くI教官の思想差別事件の連続する学生ストライキの

中でも教官—学生の信頼関係を保つことができました。このことは、紛争のさなかに行われた学長選挙の際、有権者による自由投票で選び出された10名の候補者について、学生側が行った信任投票で、望月農学部長が抜群の75%をえたことにも示されております（他の候補者はいずれも25%以下）。もちろん、この信任票は、望月先生の誠実さ立派さが他学部学生にも認められてのことでもありました。こうした激動の中で、学生と教官の信頼関係を維持したというより試されずみのものとして高めるに至った過程は、農学部教官の一人として、懐かしくもまた誇らしやかな思い出となっています。

🌸新しく迎えた会員の皆さん🌸

農学科 (29名)

農学コース (17名)

長内 俊人 (作物) 青森地区農業改良普及所
白川 裕 (〃) 青森県りんご試験場
山下 英政 (〃)
原 昌志 (〃) 十和田地区農業改良普及所
小笠原博幸 (育種) 弘前大学大学院農学研究科
小林 信之 (〃) ㈱ツムラ
手塚 光男 (〃)
中島 明 (〃) 弘前大学大学院農学研究科
船水 秀樹 (〃) 三戸地方農林事務所
池田 範夫 (畜産) 雪印乳業㈱
折笠 文則 (〃) 折笠牧場
竹田 章 (〃) 千葉県中学校教諭
長沢 好子 (〃) 秋田三菱自動車㈱
山田 健司 (〃) 北地方農林事務所
木田 涼子 (〃) ㈱北海道銀行
早川 亮 (〃) 山崎製パン㈱
村田 巧二 (〃) 青森日本電気ソフトウェア㈱

経済コース (12名)

平間 克哉 (経済) 美瑛町役場

大高 研道 (流通) 弘前大学大学院農学研究科
須田祐三子 (〃) 富山県庁
吉沢 智 (〃)
伊藤 悌 (経営) 日本通運㈱
小川 徹 (〃) 住友商事プライムミート㈱
小田桐 優 (〃) むつ保健所
塚原 大介 (〃) ㈱日本交通公社
西田 一美 (〃)
星 紀明 (〃) 弘前大学大学院農学研究科
宮崎 和美 (〃) ㈱イトーヨーカ堂
荒牧 栄治 (〃) 荒牧りんご園

園芸化学科 (37名)

阿部 喜充 (園利) 福島県庁
越前谷聡子 (〃) 北海道日本電気ソフトウェア㈱
佐藤 敬 (〃) 弘前大学大学院農学研究科
高橋 昌伸 (〃) 弘前大学大学院農学研究科
千葉 澄子 (〃) 岩手阿部製粉㈱
等々力 崇 (〃) キッセイ薬品工業㈱
中宮 玲子 (〃) 小樽農林規格検査所
及川玲一郎 (園利) 岩手県教員
川戸 善徳 (〃) 岩手県庁

工藤 健志(農利)山崎製パン(株)新潟工場
 對馬由紀子(〃)青森県庁
 中村 信也(〃)小岩井乳業(株)
 西川 修司(〃)よつ葉乳業(株)十勝工場
 本庄 求(〃)
 吉田 輝久(〃)月島食品工業(株)
 今井 裕(〃)
 石川 勝規(生化)岩手県庁
 伊藤 一憲(〃)東北日本電気
 ソフトウェア(株)
 加川 治(〃)青森市立筒井中学校
 今 良弘(〃)東北日本電気
 ソフトウェア(株)
 斉藤 弘毅(〃)岩手県庁
 進藤 章治(〃)東北日本電気
 ソフトウェア(株)
 菅原 昌一(〃)日東食品製造(株)
 鷹羽 誠(〃)弘前大学大学院農学研究科
 安藤めい子(土肥)(株)インテリアセンター
 奥山 暁(〃)弘前大学大学院農学研究科
 小野寺政行(〃)北海道中央農業試験場
 斎藤 淳(〃)弘前大学農学部研究生
 坂本 康純(〃)青森県農業試験場
 高橋由美子(〃)青森日本電気
 ソフトウェア(株)
 望月 孝之(〃)弘前大学大学院農学研究科
 渡辺 敬子(〃)丸屋醸造(株)
 小田桐真志(〃)第一プロイラー
 (株)八戸営業所
 下斗米隆治(〃)日本通運(株)航空事業部
 小澤麻由美(微生物)岩手県庁
 千田 正浩(〃)弘前大学大学院農学研究科
 森谷 和幸(〃)弘前大学大学院農学研究科

農業工学科(38名)

農業機械コース(12名)

梅沢 紀幸(農機)新潟リコー(株)
 片平 光彦(〃)弘前大学大学院農学研究科
 二階堂宣仁(〃)雪印乳業(株)
 春名 丈成(〃)神鋼プラント建設(株)
 伊神 由己(農動)弘前大学大学院農学研究科
 新保 誠(〃)芝管工(株)
 武田 格(〃)秋田ミツミ(株)
 中本 博(〃)三菱農機(株)
 樋岡 晃司(〃)自営(農業)
 平塚 成博(〃)(株)檜崎産業
 廣部 健(〃)

細野 隆(農動)(株)大隈鐵工所

農業土木コース(26名)

秋田谷正治(水利)上北土地改良事務所
 佐々木文博(〃)中南土地改良事務所
 黒石建設事業所
 新屋 智昭(〃)一宮農地開発事務所
 相馬 隆範(〃)
 田中 隆紹(〃)建設省東北地方建設局
 秋田工事事務所
 藤田 淳(〃)村上農地事務所
 吉沢 寿規(〃)
 高橋 芳成(〃)建設省東北地方局
 新庄工事事務所
 福井 則之(〃)
 一戸 公一(農地)日本道路(株)
 太田 正(〃)前田製管(株)
 白取 秀樹(〃)関東農政局霞ヶ浦用水
 農業水利事務所
 本間 唯史(〃)東北農政局迫川上流
 農業水利事業所
 丸岡 和明(〃)東北農政局藤沢開拓
 建設事務所
 鷲尾 祐一(〃)(株)竹中土木
 石川 竜明(〃)弘前市役所
 渡部 純哉(〃)ヒビノ(株)
 森山 浩司(〃)
 伊藤 勉(造施)静岡県東部農林事務所
 御殿場支所
 荻津 輝夫(〃)千葉県農林部
 加藤 博規(〃)(株)ケミカルグラウト
 木村 正道(〃)(株)ケミカルグラウト
 小山 恭司(〃)十和田市役所
 斎藤 宜子(〃)(株)竹中土木
 佐藤 芳雄(〃)秋田県農政部
 阿部 洋嗣(〃)(株)若築建設

園芸学科(26名)

伊藤 亜紀(果園)サッポロライオン(株)
 小笠原理高(〃)弘前大学大学院農学研究科
 佐藤 保(〃)東北化学薬品(株)
 高森 満雄(〃)名久井農業高等学校
 只野 博之(〃)(株)日本タイムシェア
 気仙 由紀(蔬菜)(株)ピコイ
 幸田 敦享(〃)住友林業(株)
 佐藤 雪華(〃)
 菅原千賀子(〃)岩手県経済農業協同
 組合連合会
 鈴木 康成(〃)宮城県農水部畜産園芸課

道頃 輝夫 (蔬菜) 五所川原農林高校
 牧野 徹 (") 富山県職員 (臨時講師)
 大和田裕一 (植病) 郡山市役所農林部
 佐々木由美 (") アマシャム・ジャパン(株)
 鈴木 綾子 (") 青森日本電気
 鈴木 茂寿 (") ソフトウェア(株) 岩手県職員
 中村 佐之 (") 弘前大学大学院農学研究科
 西村 弘毅 (") 丸大食品(株)
 藤原 雅実 (") ヘキストジャパン(株)
 松田 正樹 (") 大協薬品工業(株)
 川野 滋生 (昆虫) 弘前大学大学院農学研究科
 澁田 剛 (") 弘前大学大学院農学研究科
 進藤 潤一 (") 弘前大学大学院農学研究科
 中野 央子 (") 岩手県立農業試験場
 三浦 嘉浩 (") 津芸地域病害虫防除所
 三角 正裕 (") 宮古農業改良普及所

大 学 院

農学科 (2名)

下山 禎 (流通) 岩手大学大学院
 三上 孝利 (畜産) 青森県りんごジュース(株)
 連合農学研究科

園芸化学科 (5名)

加藤 望 (生化) グリコ共同乳業(株)
 佐々木 すみ (園利) 岩手大学大学院
 種市 順司 (土肥) 青森県職員
 細田 洋一 (生化) 新潟県職員
 矢内 浩二 (") 千葉県職員
 連合農学研究科

園芸学科 (1名)

清水 徹 (昆虫) 岩手大学大学院
 連合農学研究科

農業工学科 (1名)

西川 裕之 (動力)

平成3・4年度同窓会総会

1. 平成元・2年度事業報告・会計報告

- (1) 同窓会員名簿平成2年度版発行 (平成2年12月10日)
- (2) 支部活動支援
- (3) 会報10号, 11号発行

- (4) 卒業記念写真撮影および農学部との共催による卒業記念パーティ (歓迎会)
- (5) 母校の環境整備と学部機構改革に対する財政支援
- (6) 総会 (平成元・2年度, 黒石市)

平成元・2年度決算

収 入

項 目	予算額(円)	摘 要	決算額(円)	摘 要
繰越金	1,377,163	@	1,377,163	
年会費	3,000,000	@ 3,000円×1,000名	3,459,000	@ 3,000円×1,153名
入会費	1,000,000	@ 5,000円×200名	1,230,000	@ 5,000円×246名
広告料	150,000	@ 10,000円×15件	180,000	@ 10,000円×15件
利息	50,000		461,680	
雑収入			119,258	総会, 売上他
合 計	5,577,163		6,827,101	増収 1,249,938



支 出				
項 目	予算額(円)	摘 要	決算額(円)	差 額 (円)
名簿発行費	1,500,000	平成2年度版	1,205,280	294,720
会報発行費	700,000	会報10・11号	666,573	33,427
歓迎会費	500,000	祝賀会・写真	597,571	-97,571
支部後援費	500,000	支部会総会支援	164,000	336,000
母校援助費	400,000	環境整備, 機構改革	600,000	-200,000
会議費	300,000	総会, 役員会	440,500	-140,500
庶務・管理費	700,000	名簿管理, 事務謝礼	371,521	328,479
通信・印刷費	500,000	総会案内葉書印刷他	436,125	63,875
慶弔費		香典6件	32,110	-32,110
振替手数料			73,370	-73,370
予備費	477,163		990,113	-512,950
合 計	5,577,163		5,577,163	0

繰越額 2,240,051円

2. 平成3・4年度事業計画

- (1) 同窓会員名簿平成4年度版発行(平成4年11月)
- (2) 支部活動支援
- (3) 会報12号, 13号発行

- (4) 卒業記念写真撮影および農学部との共催による卒業記念パーティ(歓迎会)
- (5) 母校の環境整備(キャンパスの手入れ)
- (6) 総会(平成3・4年度, 青森市)

平成3・4年度予算案

収 入			
項 目	予 算 額 (円)	摘 要	
繰越金	2,240,051		
年会費	3,600,000	@ 3,000円×1,200名	
入会費	1,100,000	@ 5,000円×220名	
広告料	240,000	@ 15,000円×16件	
利息	130,000		
雑収入	85,000		
合 計	7,395,051		

支 出			
項 目	予 算 額 (円)	摘 要	
名簿発行費	1,700,000	平成4年版, 名簿管理費を含む	
会報発行費	1,000,000	会報12号と13号	
歓迎会費	1,000,000	祝賀会, 写真	
支部後援費	500,000	支部会総会支援, 新支部発足	
母校援助費	400,000	環境整備	
会議費	500,000	総会, 役員会	
庶務・管理費	400,000	事務, アルバイト代等	

通信・印刷費	600,000	総会案内葉書印刷他
慶弔費	50,000	
振替手数料	100,000	
予備費	1,145,051	
合計	7,395,051	将来の特別事業のため長期貯蓄

3. 同窓会役員名簿 (平成3～4年度)

	氏名	卒業年	勤務先	講座名
名誉会長	正木進三		農学部 長	
会長	中尾良仁	32	青森県	土畜肥
副会長	桜庭誠蔵	36	弘前市	畜産
監事	今哲弘	42	自営	農経
	扇田実	33	青森県	土肥
	成田常雄	33	柏木農業高校	作物
評議員	西川明満	45	農協中央会	作物
	佐藤孝	34	青森県	農工
	福士昭夫	38	青森県	作物
	三上巽	42	青森県	農経
	佐々木正昭	45	青森県	育種
	佐藤鉄雄	45	青森市	育種
	及川博	47	農業会	農経
	奥村忠男	42	経済連合会	農経
	大角場真紀	38	芝管工	農経
	桜庭三好	45	農学部	水利
	関山博	42	弘前市	農協
	蓮井裕二	49	東北女子大	生利
	奈良岡馨	56	工業試験場	農利
	蒔苗龍一	45	東北建設コンサルタント	農地
	田中満	58	藤崎園芸高校	育種
	五十嵐啓一	48	自営	機械
	木立正博	46	黒石市	造構
	川嶋浩三	50	りんご試験場	昆虫
	木村利幸	48	農業試験場	昆虫
	木村郁夫	47	きむら種苗園	芸種
神敏勝	43	柏木農業高校	育種	
工藤博喜	54	尾上農協組合	果樹	
福士有	48	五所川原農林高校	育種	
久保淳	34	八戸市	畜産	
斎藤一志	45	五洋建設	造構	
中村充夫	55	名久井農業高校	果樹	
栗生和夫	32	畑作園芸試験場	園芸	

	氏名	卒業年	勤務先	講座名
	相馬 敏光	45	佐々木 農機	機械
	工藤 保	48	むつ 市	土肥
	山田 育夫	52	東北 農政局	水利
支部長	今村 文一	33	県 信連	農経
	須藤 正光	47	弘 前 市	農地
	鎌田 健造	35	農業 試験場	土肥
	萬田 伝三郎	32	八戸 普及所	作物
	小槌 史郎	40	三本木 農業高校	畜産
	平井 正和	33	入口 小学校	植病
幹事	工藤 啓一	38	農 学 部	作物
	塩崎 雄之輔	41	農 学 部	園芸
	宮入 一夫	47	農 学 部	生化

4. 規約の改正

規約の一部が、下記のとおり改正された。

第5条 本会に次の役員を置く。

1. 会長 会員中より役員会で選考し、総会で推薦する。
2. 副会長 会員中より役員会で選考し、総会で推薦する。
3. 監事 会員中より役員会で選考し、総会で推薦する。
4. 支部長 支部総会で正会員より選出する。
5. 評議員 総会において正会員中より30名以内を選出する。
6. 幹事 正会員中より若干名を会長が委嘱する。

新設→第8条 本会に名誉会長と顧問を置

く。

1. 名誉会長 学部長を推戴する。
2. 顧問 会長および副会長の経験者を会長が委嘱する。

第8条→第9条 総会

ニ. 規約改正

第9条→第10条 役員会

第10条→第11条

なお、本規約改正が承認された後会長が以下の3名を顧問として委嘱した。

- ・横山 宏 同窓会発足当初から昭和61年度まで会長
- ・土岐政雄 同窓会発足当初から昭和61年度まで副会長
- ・岩井邦彦 昭和62年度から平成2年度まで会長

支部だより

西北五支部昨年につづいて盛大に開催

平成2年2月14日、西北五支部（尾野正支部長）が五所川原市の「蝶屋」で支部会を開催しました。出席者は支部区域勤務および在

住の会員はもとより、弘南支部会員の出席もあり盛大でした。

同 窓 通 信

会報11号で紹介しました弘前大学農学部同窓生からなる茨城県普及員会は、その後の活動も活発で平成3年4月、須之内浩二氏（茨

城県普及員）から、通信紙『常陸野』第2号を発行したという便りが寄せられました。その一部を紹介します。

酒量足りて、カラオケを知る

今回は、普及員会のメンバー5人に、千葉農試の西川君と福島農試の渡辺君が個人的なつてをたどって参加してくれました。

西川君は利根川沿いの水郷地帯で、水田作全般に力を注いでいる、好青年を絵に書いたような人です。（彼と仕事の話をしていると、自分が如何に無為に時を過ごしてきたかを実感させられます。）

渡辺君は、畑作担当とのことですが、はとむぎに情熱を傾ける、あまりまっとうな生活をしていなさそうな青年です。でも優秀さが時折にじみ出る、頼もしい人です。（水戸の本屋で、はとむぎの本を見つけたと喜んでいました。）

さて、会合は県外からのお客様を迎えたのをきっかけに、弘大出身者があそこにも、ここにもいると言う話が部分的に盛り上がりました。そこで、次はもっと多くの人に声をかけて盛大にやろうということになりました。

でも、猫の首に鈴をつけるのと同様、だれが先導するのやら不明です。

そうこうしているうちに、一次会の場所を出て二次会場へ移りました。無愛想な主人のいるホテルの門限を気にしながらも、スナッ

クのマスターに乗せられて、カラオケに花を咲かせました。

余談ですが、今年に入って一月に須之内の長男が、2月に広沢（吉川）の長女が誕生しました。いずれも30代の第1子で、体力の衰えぬ間に次をと考えているのではないのでしょうか。

桜前線が東北地方まで進みました。弘前城のあの夜桜、りんご園のたんぼほのじゅうたん、そしてりんごの花と背景の岩木山。

日本酒の匂いと共に、何年経っても心がうづくあの景色を、また見たいなあ。

……桜の散った常陸野より



後列左から 渡辺 西川 須之内 神原 広沢
前列左から 伊豆原 阿部

計 報

葛西 茂春氏（S 38年 農経卒 火災海上保険相互会社）平成2年7月27日逝去

長尾 吉洋氏（H元年 果樹卒）

北向 義則氏（S 50年 作物卒 日本甜菜製糖）

三氏の御逝去を惜んで、心から御冥福をお祈り申し上げます。



教 官 人 事

退 官

3.3.31 奥村 實義 教授 (園芸農学)

3.3.31 澤村 健三 教授 (生物環境管理学)

3.3.31 田辺 良則 教授 (農業生産流通学)

昇 任

原田 幸雄 教授 (生物環境管理学)

高橋 輝夫 講師 (生産機械学)

高橋 秀直 教授 (農業生産流通学)

角野 三好 講師 (農業土木学)

新 任

大町 鉄雄 (生物機械開発学)



事務局からのお知らせとお願い

その1.....

住所録の充実についてご協力お願いします。卒業生総数3,281名分の氏名、勤務先、住所等をコンピュータに収録し、管理することを外部の業者へ依頼しております。これは2年に一度の名簿作成や会員との連絡のメールステッカーの引出しに利用しております。

転勤や転職で住所が変更しても、事務局への届出が少ないため、発送した郵便物が「受取人住所不明」で戻る場合が多く、郵便料の無駄づかいにもなっております。会費納入者については振替用紙から現住所を写し出せますが、63%の未納者は住所が不確実で空欄が多く、困っております。会員の皆様、どの様な方法でもかまいませんので、同窓会事務局宛に変更した住所や勤務先等をご連絡下さい。

その2.....

平成3～4年度は総務 工藤啓一(内線4663)、会計 宮入一夫(内線4643)、情報 塩崎雄之輔(0172-75-3026)の体制で、総会において承認された諸事業を的確にすすめ、事務処理に当たりますので、よろしくご協力をお願いします。

その3.....

会報を通じて情報交換をしませんか。各地の話題を紹介して下さい。同窓会報を活用した情報交換はいかがですか。投稿をお待ちしております。

その4.....

同窓会報の編集についてのご意見をどうぞお寄せ下さい。

その5.....

農学部創設30周年を記念して発行された記念誌『30年のあゆみ』、文鎮『望着天』および絵はがきが若干余っていますので、御希望の方は同窓会事務局にお申し込み下さい。頒布価格は記念誌が1,500円、文鎮が1,000円、絵はがきが150円です。なお、送料は別です。

その6.....

平成2年12月版会員名簿の訂正・加除について

別紙のように訂正・加除がありましたのでお知らせします。

なお、不明者について勤務先、自宅住所等お知らせいただければ幸いです。